

平成21年度学校評価のまとめ

22.03.10

学校評価の目的として、①開かれた学校づくり、②教育活動、内容の質の向上、③学校の活性化、④教職員の資質向上、のために実施しました。

アンケート調査は、生徒（各教科の授業・学校生活）、保護者、学校評議員、職員に実施後、分析を行い、学校改善の方向性を検討した。

1. 生徒の評価について

回答数は、1年生	98名（在籍107名）	91.6%
2年生	97名（在籍105名）	92.4%
3年生	89名（在籍97名）	91.8%
回答数	284名（在籍309名）	91.9%

2. 保護者による学校評価の回答数

1年生	回答数101名	94.4%
2年生	回答数84名	80%
3年生	回答数77名	79.4%
総回答数	262名	84.8%

A：よく当てはまる
B：やや当てはまる
C：あまり当てはまらない
D：当てはまらない
E：不明（判断できない）

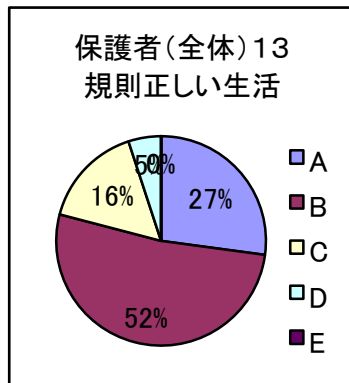
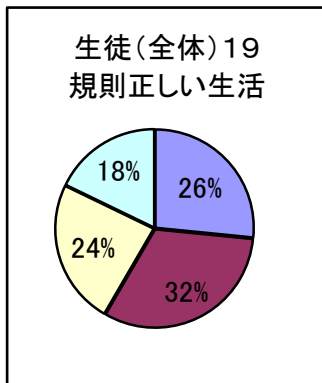
3. 職員による評価 22名

4. 学校評議員 5名

以上の1～4のアンケート等を総合分析し学校改善の指針とする。

評価でAとBについては、肯定的と考え、60%以上を良いと捉え、50%を切るものを課題ありと捉え分析していく。CとDについては否定的で改善が必要であると捉える。

来年度、具体的に検討しすぐに対応・実践できるものと長期的に対応を検討していく必要があるものに分けながら指針をまとめていく。



1〔規則正しい生活について〕

〈昨年度の課題〉

成長期の生徒なので朝食を摂ること、食育についてはきめ細かく保護者に協力してもらうようにしていく。また、朝の登校時間や服装にも注意させる必要がある。

〈全体的な講評〉

多くの生徒は規則的な学校生活を送

っている。塾に通う生徒も多く、帰宅時間が遅く、就寝時刻が遅くなる傾向があり、規則正しい生活（早寝・早起き・朝食）ができていないと感じている生徒がいるので、保護者と話をしながら協力を仰ぎ、改善する必要がある。

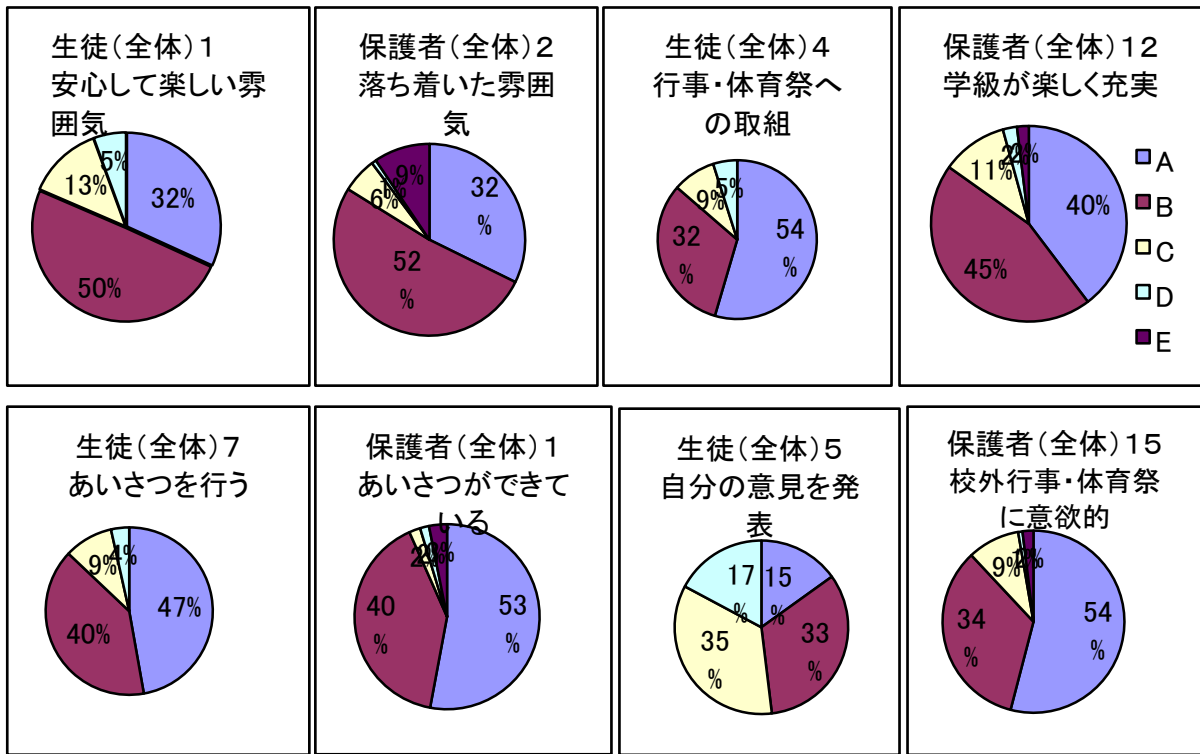
〈改善の視点〉

生徒の健康観察等、学校側の努力を怠ることなく、指導していく必要がある。また、保護者に協力してもらうようにしていく必要がある。

2〔学校生活について〕

〈昨年度の課題〉

- ・規則正しい生活（朝の登校時間や服装など校則を守ること）については、保護者の協力が不可欠なので保護者との話を継続的に行うことにより理解をしてもらう必要がある。



・係の仕事については、積極的に取り組んでいる生徒と消極的な生徒がいる。

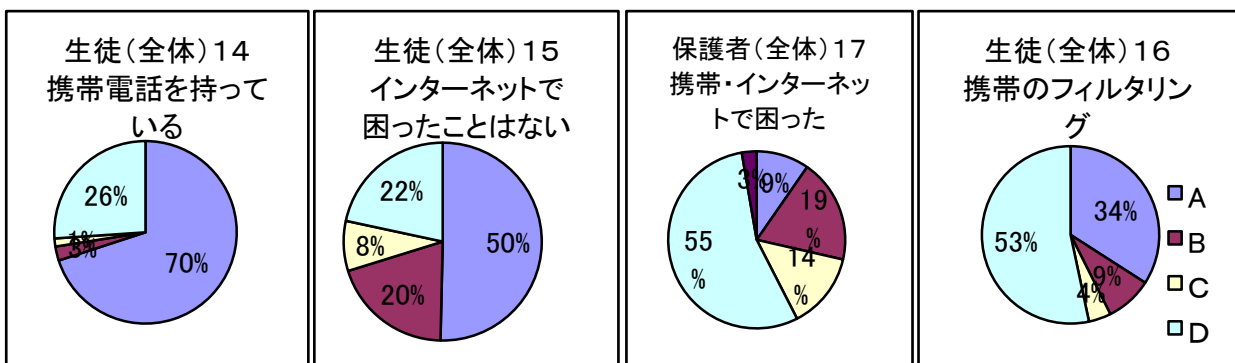
〈全体的な講評〉

- ・ほとんどの生徒は授業や行事に積極的に取り組み、仲間と協力して安心して楽しく学校生活を送っている状況である。保護者からも生徒たちは、きちんと挨拶ができ、礼儀正しく、行事や生徒会、部活動などに積極的に取り組んでおり、良い状況だと思うという意見もあった。
- ・進んで意見を発表できていない生徒もいるようなので、授業やHR等の活動のなかで工夫をする必要がある。具体的には、授業のなかで、教師が発問の仕方を工夫すること、発言力の低い生徒への積極的な働きかけ、小グループでの活動を活発にすることなど、心を動かす働きかけを心掛けていく必要がある。
- ・挨拶がもっとしっかりできると良いという生徒からの意見もあったので、学校全体で取り組んでいけると良い。

〈改善の視点〉

日常の指導の成果であり、これからも信頼される学校づくりを進めるよう継続指導が必要であると考えます。今後も、生徒と保護者への積極的なアプローチをしていくことにより、課題点の改善に努めていく必要がある。

3〔携帯電話、インターネットの使用について〕



〈昨年度の課題〉

学校裏サイトの存在、ブログ、プロフなど情報は社会的な問題であり学校現場としても危機感がある。

〈全体的な講評〉

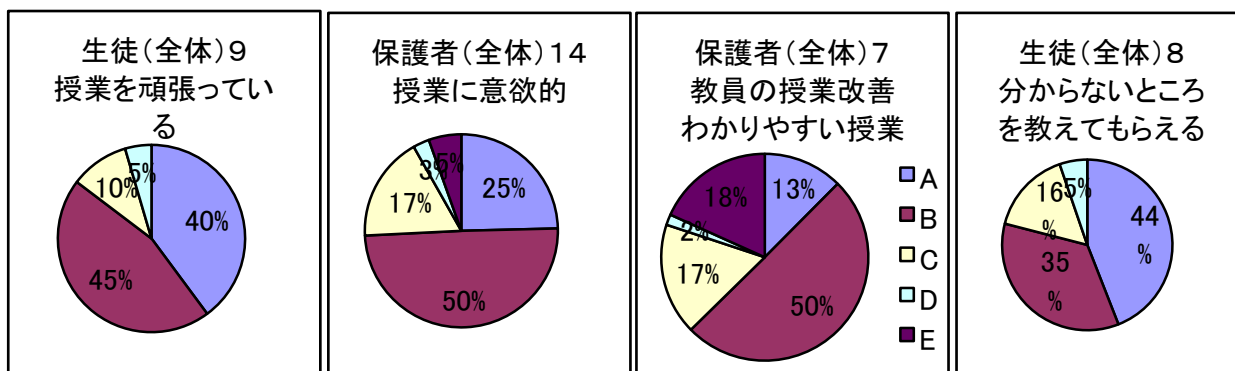
昨年度の集計より、22%増加し42%まで「こまり感」が高まってきている。保護者が安全・安心のために子どもに持たせているケータイ電話の取り扱いは、保護者が知り得る以上に子どもたちの知識の方が豊富であり、ケータイ電話と言うよりもPCの端末と言うことを再認識したい。また、フィルタリングの利用率も40%と余り高くない状況を示している。子どもたちは勿論のこと、保護者に対してもケータイ電話の利用方法の「やくそく」を啓発する必要がある。 ※ケータイ電話の所有率も70%

〈改善の視点〉

子どもたちが、ケータイ電話・インターネットを利用する機会は、近年急激に増加してきており、子どもたちの生活スタイルや人間関係づくりの面で多大な影響を与えている。こうした中で、ケータイ電話・インターネット上の非公式サイト(いわゆる「学校裏サイト」)を利用し、特定の子どもに対する誹謗・中傷が集中的に行われたり、他人になりすましてケータイ電話のメールを利用し特定の子どもに対する誹謗・中傷を不特定多数のケータイ電話に送りつけたりするなど、『ネットいじめ』と言う「新しい形のいじめ問題」が深刻化してきている。

有効な対策を講じていく上で、重要なことは、各携帯電話事業者等において事業に伴う社会的責任を認識し、適切な処置を講じていくようにするとともに、保護者や身近な大人が、そして社会全体が子どもたちのケータイ電話やインターネットの利用の実態を十分に認識した上で、情報モラルについて子どもたちにしっかりと教え、未然防止・早期発見・早期対応に努めることである。

4 〔授業について〕



〈昨年度の課題〉

- ・ 各教科において、基礎・基本が何であることを明確にし、生徒が主体的に学習できるシステムを確立していく必要がある。
- ・ 学習カードや週案の作成、教科面談などの工夫によって、主体的に学ぶ生徒を育成する。

〈全体的な講評〉

授業については、規律やルールを大切に落ち着いた雰囲気の中で行われているが、生徒の理解度や興味関心を高める内容につながっているかは、保護者の要求から見ても、教員のさらなる努力が求められている。授業展開の工夫や、板書、ワークシートの利用についてもよりよいものを追求していく姿勢が大切である。

生徒自身は授業を頑張っているという意識の生徒が多い。わからないところを質問した

り、教え合い学習などを通して、主体的に取り組む意欲を高めていきたい。教科の課題提出についても学年が上がるごとに意識は高まるが、入学当初からしっかりと習慣づけていけるとよいだろう。

今年度、週案の作成を試みたが、授業の進度の把握、振り返りをしっかり行っていくことは大切である。

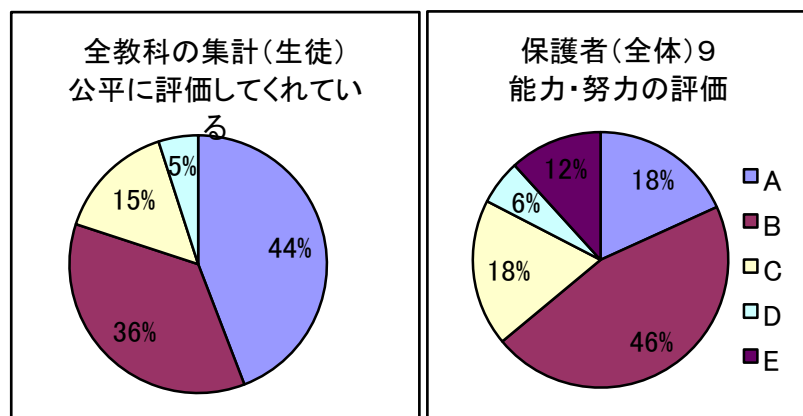
〈改善の視点〉

授業の質を高め、生徒の学習意欲を高める工夫をすることによって、生徒の興味、関心を引き出し、より深い学びが得られるよう努力をしていきたい。

具体的には、生徒が、主体的に学習できるシステムを確立していくために、今年度に引き続き、学習カードの活用や、教科面談の工夫をしていく。また、週案については、実行できる形式、内容などを検討し、全教員がしっかり意識を持って取り組んでいく。

授業でのつまづきを少しでも救うための対策として、放課後の学習会の実施。家庭学習の習慣をつけるための課題の出し方など検討し、実施していく必要があると考える。

5〔評価について〕



〈昨年度の課題〉

- ・ 「目標準拠による観点別の評価」という意識を高める。試験問題作成にあたって、作問や配点の工夫
 - ・ 評価についての生徒や保護者の理解を深める必要性
- 〈全体的な講評〉
各教員は、生徒の能力や努力を

適切に評価しているという高い意識をもっている。また、生徒も、公平に評価されているという意識はある程度保たれているが、保護者については、どうしても定期試験の成績のインパクトが強く、評価についての正しい理解が難しいことがある。年度当初の評価についての説明会や、成績と一緒に示している観点別評価項目一覧表だけでなく、まず、日頃から生徒への具体的な説明をし、理解を深める必要がある。

評価に対する不公平感などを抱かれているご意見もあり、信頼度の高い評価を示していくために、努力と工夫をしていかなければならない。

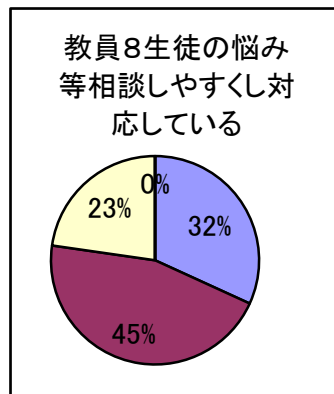
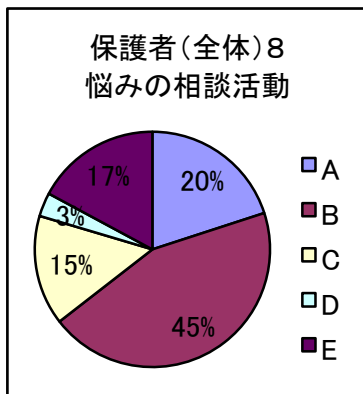
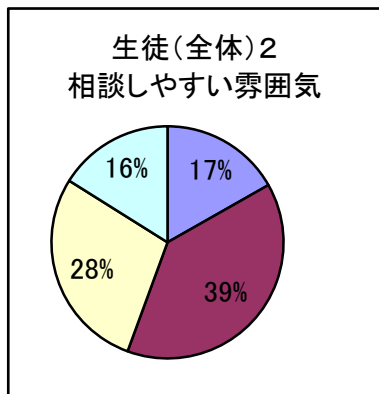
〈改善の視点〉

年度当初に各教科担任が、授業開きにあたって、まず、年間授業計画や、評価計画について、生徒に理解しやすいよう、工夫し、丁寧に説明をする。言葉だけでなく、資料など示し、年間を通じて、生徒が見直したり、確認できるようにする。

教科面談などに積極的に参加を呼びかけ、自分が何をどのくらい努力していく必要があるのかを把握し、次の学習に生かせるような流れができるとうい。

教師も試験問題作成にあたって、難易度や配点の工夫をする。そして、観点別評価の意図に合った作問の工夫をいっそう深めていきたい。

6〔相談活動について〕



〈昨年度の課題〉

昨年度のアンケートより、生徒も保護者も相談しやすい雰囲気を求めている傾向が出ている。このことから多くの教員が相談しやすい雰囲気や声かけなど日常生活の中からの相談を行っているが、まだまだ拾い上げられないのが現状であった。

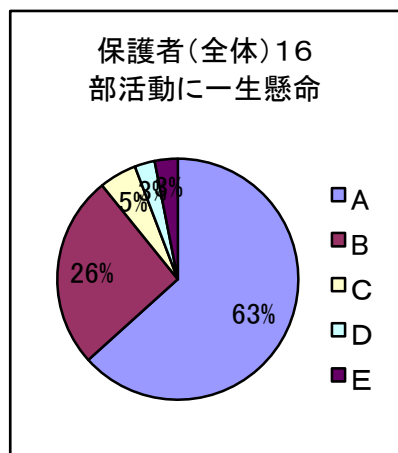
〈全体的な講評〉

相談や悩みを話しやすい雰囲気がある割合が少し多くなっている。これはスクールカウンセラー（SC）や訪問相談員の役割が非常に大きいと感じる。相談室の存在が浸透し、いつでも相談できる雰囲気があり、生徒・保護者にも認知されている結果だと考える。

〈改善の視点〉

相談室とも連携を図り、教員が相談活動を充実させていくことが大切である。生徒と関わる時間の確保や日常の学校生活での声かけなどを行いながら、具体的に生徒と関わる時間を増やしていくことが必要である。

7〔部活動について〕



〈昨年度の課題〉

もっと意欲的に指導して欲しい等、の意見があった。

〈全体的な講評〉

部活動加入率も高いためか、近隣校に比べ、素直な生徒が多いと思います。

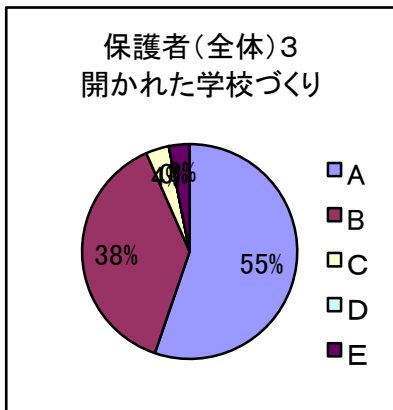
「2年生保護者アンケートから」

昨年度の86%から今年度89%に若干の増加が見られているが、各部によって活動参加率が良くない部活が見られる。学校教育の中で、子どもたちが一番楽しみに・興味を示す活動領域でもあるということを考慮し、また、生活指導・生徒指導の観点からも大きなウエイトを持つ活動として指導の充実を一層図りたい。

〈改善の視点〉

チャンピオンスポーツの技術指導にのめり込むのではなく、中学生としての望ましいアスリートを育てるためにも職員の研修と指導が大切である。

8〔開かれた学校づくりについて〕



〈昨年度の課題〉

概ね良好であり、学校の情報から開かれた学校ということで理解をされている。

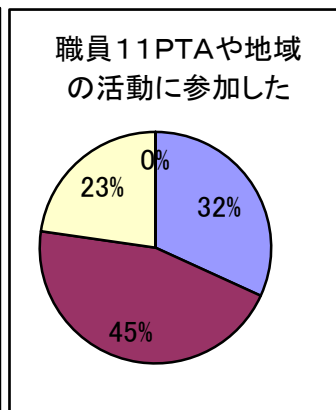
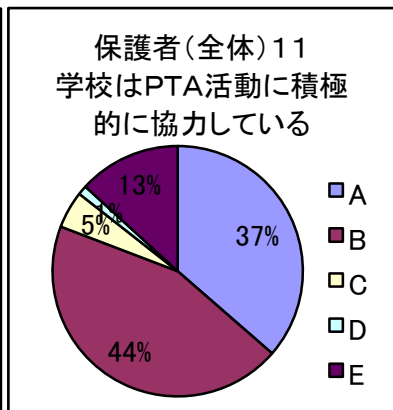
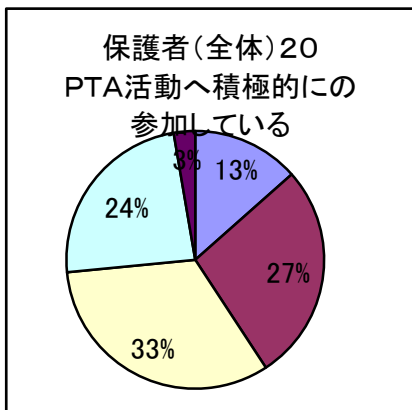
〈全体的な講評〉

学校の様子を知るようにしている保護者が若干減少している。学校での活動内容をきちんと伝え、今何をやっていて、どんな成長をしているか、学校に興味をもってもらう手立ても考えていく必要があるようである。

〈改善の視点〉

授業参観は平日に行っていたが、土曜日(休みの日)におこなうことも考えられる。平日の授業参観でも多くの方に来ていただいている現状があるので、各行事やPTA活動にも積極的に多くの方に参加していただくよう配慮していければと考える。

9 [PTA活動について]



〈昨年度の課題〉

職員の参加状況については、親睦会やふれあい花壇など多くの先生が参加して頂いている。各委員会へも参加していけるようにしたい。

保護者の参加状況については、参加しやすくするための活動内容の効率化が各委員会の取り組みの中で試みられた。

〈全体的な講評〉

仕事に就かれている保護者がさらに多くなり、「PTA活動に積極的に参加できていない。」という方が増えている。できるだけ参加しなければという気持ちを持っている方は多いと思われるので、そうした方が、参加しやすくしていく工夫が求められる。

〈改善の視点〉

参加できるときに参加して頂けるように、活動内容についてのお知らせを確実に伝えるようにする手立てや、「まちcomiメール」などを使った新たな伝達方法の工夫をしていく必要がある。また、委員会の活動内容の効率化も、引き続き検討されるべきである。

○学校評議員の活動について

〈昨年度の課題〉

昨年度は、学校の様子がよくわからない、判断できないという回答が多くあ

り、来校したときに授業や学校全体を見たり、教員との懇談をするなどして、学校の情報を細かく伝える。

〈全体的な講評〉

全体的に落ち着いており、生徒の挨拶もしっかりできており服装の乱れも少なく「いきいき」しており、授業中の雰囲気は、予想以上に良い。理解が困難な生徒にどうやって理解させていくのか、難しい問題で、先生方の力量が問われる。校内はきれいであったが、清掃活動については遊んでいた生徒もいたので、指導していく。

地域の行事や活動には、限られた生徒だけでなく、多く参加して地域の人達とも接しながら、学校と地域の繋がりをもっと深めた方が良い。逆に、地域の方に学校に来ていただき活動する（花壇を一緒に作るなど）等で交流を深めていく。

〈改善の視点〉

学校評議員会として、もっと授業見学や教員・生徒との懇談を通してさらに学校の現状を知ってもらいながら、ご意見をいただく必要がある。また、地域の声を代表して学校に届けられるよう取り組む。

指摘された、「清掃活動」については校内美化の観点からもしっかり指導していく。「地域との繋がり」については、地域の方と生徒との話し合いの場をさらに多くすること、参加しやすい雰囲気を作っていく。また、現在はチョボウの会や部活動で参加しているが、多くの生徒への呼びかけを行い、地域の人達との交流を拡げていく。

○保護者からの記述より

〈昨年度の課題〉

教員の言葉遣いにより生徒が傷ついている、また、昼食時間が短すぎて食べきれないとの指摘があった。さらに、職員の喫煙についても生徒への影響を考えて、決められた場所をお願いしたいとの意見が出ていた。言葉遣いについては、誤解を受けるような言動は極力避けるようにしなければならない。昼食時間については、特に1年生と思われるが、生徒の様子をみて時間を考慮する必要がある。喫煙は、決められた場所のみにしている。

〈全体的な講評〉

学校全体が落ち着いていて、挨拶がよくできる生徒が多い。また、部活動の加入率が高いためか素直な生徒が多い。先生方が一所懸命に取り組んでいることがわかる。一方、学級経営、授業の充実は、各教師の能力、個性によるところが大きく、ばらつきがある。授業を見たいので、土曜参観を希望している。学校からの配布物が家まで届かないことがある。進路について、もっと情報公開をし、個人的にサポートする体制が欲しい。

〈改善の視点〉

引き続き、誰に対しても来校者に挨拶できるように指導していく。学級経営、授業づくりについて、今以上に教員の研鑽を積んでいく。また、校内での情報交換を密に行い、研修会を開いていく等、教師力の向上に繋げていく。次年度、合唱コンクール等を土曜参観に計画していこうと考えている。配布物については、担任が配布する際にひと工夫する等、家庭に必ず届くよう取り組んでいく。

進路については、経験の浅い教師が年々増えている現在、まずは、校内の体制を見直し、今年度の反省を次年度に生かしていく。

○教職員のアンケートより

〈昨年度の課題〉

昨年度の学校評価から、「相談活動」「授業改善や評価」についての課題があった。学習指導や生徒指導等を進めるにあたって、組織的に動きながら個々の生徒に対応していくという課題があった。

〈全体的な講評〉

学校評価を継続する中で、職員も意識しながら努力し取り組んできている状況がわかった。しかし、アンケートから、職員相互のコミュニケーションが不足している、どの教員も同じように指導にあたっていくという点に問題があることが分かった。

〈改善の視点〉

指導するにあたって、共通理解をしっかりと図りながら進めるとともに、途中経過についても連絡し合い生徒理解を深め、報告→連絡→相談を細かく行いながら最善な指導を展開していく。

教職員の様々な色の声の一つの方向に向かっていることが大切であると考えられる。結果をすぐに出すことも必要だが、生徒に教えながら「これは、まずい」と思わせながらじっくりと理解させていく必要がある。時間はかかっても、あきらめずに指導していく。

学校運営への参画意識を持ちながら、また職員会議を研修の場面と考えながら活性化させていく。